

会議名	「食品に関するリスクコミュニケーション（東京） ーリスクコミュニケーションはいかに食育に貢献できるかー」
開催日時	平成 18 年 6 月 5 日（月）；14：00～17：00
開催場所	東京厚生年金会館 地下 1 階ロイヤルホール（東京都新宿区新宿 5－3－1）
主催者	食品安全委員会、厚生労働省、農林水産省
参加人数(概数)	200 名（消費者団体、主婦・学生、生産者、食品関連事業者・団体、マスコミ関係者、行政（自治体、独）、食品関連研究・教育機関の申込者の中から主催者が選定、ほかに食品安全委員会事務局関係者約 50 名
1. 会議の概要 (500～1,000 字 程度または議事 内容の資料添付)	<p>食育基本法に基づき、平成 18 年 3 月に策定された食育推進基本計画では、健全な食生活の実践には、最新の科学的知見に基づく客観的な情報の提供が不可欠であるとされている。「食品の安全性」についての正確な情報をどのように分かりやすく、タイミングよく伝えるか、食に関する情報が氾濫する中で、自らの判断で食品を選択するための情報をどう的確に得ていくかといった情報リテラシーの向上などに考える意見交換会を、「食育月間」の行事の一環として開催された。</p> <p>BSE、鳥インフルエンザなどについて畜産の生産現場では、畜産物の食の安全性に関する情報伝達の不手際からこれまでに多大な犠牲を強いられてきているが、今後もこのような事態が発生しないという保証はない。畜産物の生産現場から加工・流通の場面において食の安全性について消費者、教育者やマスコミの意識構造については常に事前の情報収集に努めて遺漏なきよう事前の対策を講ずる必要がある。</p> <p>このような視点から、今後の畜産技術の研究開発の場に対処できる基礎的情報と知見を調査、抽出して以下のように報告する。</p> <p>①導入講演「食育推進基本計画と食の安全に関するリスクコミュニケーション（報告者注：情報・意見の交換）について」 坂本元子（食品安全委員会委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスクコミュニケーションと食育の関係 ・意見交換会、リスクコミュニケーションの問題点 ・関係者・コミュニケーター・消費者間の温度差 ・改善の方向 <p style="text-align: right;">（資料 1 参照）</p> <p>②基調講演「食品の安全と情報リテラシー（報告者注：理解する能力）の向上」 高橋久仁子（群馬大学教育学部教授）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康関連食情報の氾濫（⇒修正の方向に） ・巷の情報には偏りがある ・フードファディズム（食べ物や栄養が、健康や病気に与える影響を過大に評価したり信じること、針小棒大、神話） ・食品に対する不安の扇動 ・情報を読み解く力 ・マスメディアの功罪 <p style="text-align: right;">（資料 2 参照）</p> <p>③ビデオ上映「気になるメチル水銀ー妊娠中の魚の食べ方ー」</p>

	<p>食品安全委員会の水銀に関する基準改定を基に、NHK エンタープライズに制作させたもの。PR を兼ねて。</p> <p>④パネルディスカッション 〈コーディネーター〉中村靖彦 食品安全委員会委員 〈パネリスト〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神田敏子 全国消費者団体連絡会事務局長 食品安全は消団連 50 年の柱、新しい食品安全委員会に期待、3 年間を振り返っている、結果だけではだめでリスクの情報が必要、BSE 騒動では行政の信頼が崩れた客観的な情報の発信が不可欠、 ・鈴木勝士 日本獣医生命科学大学獣医学部教授 農薬開発が専門、新農薬は慎重に対応、リスクは確率論、 ・高橋久仁子 群馬大学教育学部教授 消費者の頭に一旦入力された情報の消去は困難、 ・福士千恵子 読売新聞東京本社生活情報部次長 読者の関心は 2 極化、メディアそのものが多様化、食品の安全性は白か黒かより大部分はグレーゾーン、食育は何をやったら良いのか模索中、企業としてや異業種間の連携が大切、 ・喜園伸一 (株)NHK エンタープライズプロデューサー 「試してがってん」制作方針；合理的判断力、考える道筋、上位下達は駄目、 <p>⑤会場参加者との意見交換 (定型的意見を想定してか？、当初から交換を含めて 15 分間に限定。目新しい意見は少なかったが)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(コンサルタント) リスクベネフィットでは通じない、リスクトレードが有効 ・(地域消費者団体会長) 一般小売店では県の力が及ばず、産地表示もされていない現状を認識して、隅々まで力が届くように。活動資金(力)も欲しい ・(主婦) 初めて参加して、資料が分からない <p>⑥座長総括 食育月間に因んだ初めての開催であったが、よい集まりであった。</p> <p>⑦閉会挨拶(寺尾充男委員長代理) 食育月間の一環として開催したが、今後も食の安全についてのリスク評価・情報の交換に努め、海外有識者も呼びたい。</p>
<p>2. 今後の研究開発分野として重要と思われる関連発表課題・話題提供名</p>	<p>食育基本法で定められた基本方針(平成 18~22 年度)は平成 19 年度から予算化され、具体的に進められるのであろう。その中で、今回の意見交換会で委員等から表明された食品安全委員会の考え方も反映されるだろう。そのような方向に沿った研究開発課題に注目したい。</p>
<p>3. その他の発表課題で関心のあったもの</p>	<p>食品安全委員会としてもこれまでは、ややもすると食品の安全性について一方的な声高な消費者やそれに雷同するマスコミに引きずられてきた感が否めない。今後は、消費者、団体の意見や声に対して公正な立場で対処して行く姿勢に転換したことを感じさせられた委員等の発言であった。</p>

<p>4. 今後研究開発課題採択に当たって参考とすべき事項等</p>	<p>食品の安全性に関する研究開発課題は、公的な機関だけでなく、地域的あるいは民間団体によるものにも注目しなければならない。また、食育の計画には畜産と畜産物に関するものが適切に組み込まれる必要がある。そのようが技術やシステム開発に関する課題の選定も必要である。</p>
<p>5. 会議の所感</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この意見交換会の申し込み先は、株式会社コンベンションリンクエージ業務委託先：株式会社アプテックであった。これは食品安全委員会がこの会議開催を事務効率改善の観点から、一般競争入札制度のシステムにより決定された民間企業に、会場の確保、参加者受付などの一部業務について管理を委託して実施したことによるものである。 出席してみて、従来出席したこの種の会議運営について遜色は感じられなかった。 ・この会議の構成は、導入講演、基調講演、ビデオ上映、パネルディスカッションそして意見交換と多彩なもので、当初は3時間弱の時間設定に疑問を感じた。しかし、出席してみて、今後における食品案全委員会活動の基本姿勢を示すものであると理解できた。
<p>報告者</p>	<p>針生 程吉</p>